

1 概況

総合指数は平成17年を100として100.9となり、前年比は0.6%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.5となり、前年比は0.3%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は99.7となり、前年比は0.1%の下落となった。

1 - 1 近年の総合指数の動き

和歌山市の年平均総合指数は、平成10年の104.5を最高として、その後下落傾向に転じた。

平成11年、12年は生鮮野菜、電気・ガス代及び工業製品などの値下がりにより両年とも0.5%の下落となった。13年には生鮮食品は値上がりしたが、家具・家事用品や教養娯楽関係の値下がりなどにより0.6%の下落となった。14年は生鮮食品、被服及び履物などの値下がりにより1.5%の下落となり、過去最高の下落幅となった。15年も生鮮食品、被服及び履物などの値下がりにより0.6%の下落となった。16年は家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財などの値下がりにより0.2%の下落となった。17年は灯油価格が大幅に値上がりしたが、引き続き家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財などが値下がりしたことにより、0.5%の下落となった。平成18年は引き続き灯油価格が大幅に値上がりしたほか、7月のたばこ税引き上げに伴う諸雑費の値上がりなどにより、0.3%の上昇となった。総合指数が前年比で上昇したのは平成10年以来で、8年ぶりのことである。

平成19年は果物の大幅な値上がりに加え、魚介類や調理食品も値上がりしたことから、総合指数は前年に引き続き2年連続での上昇となった。

図1 和歌山市消費者物価指数と前年比の推移

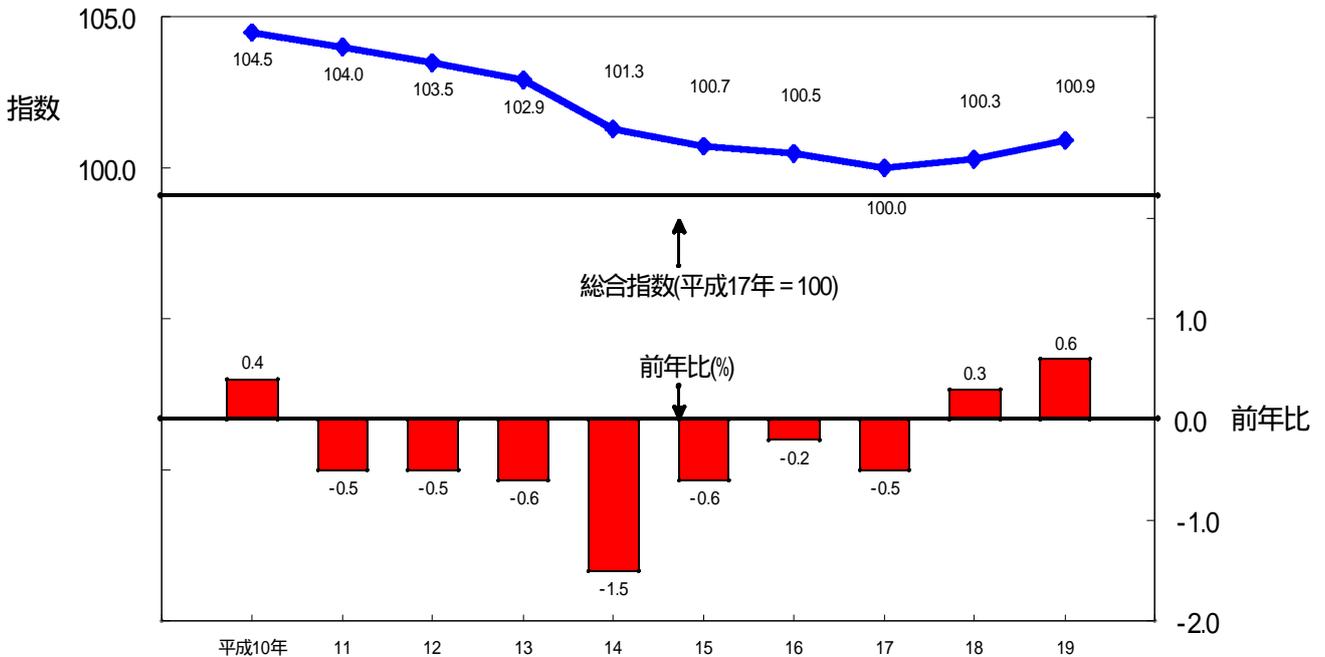


表1 和歌山市消費者物価指数と前年比の推移

年	総合指数 (平成17年 = 100)	前年比 (%)
平成10年平均	104.5	0.4
11	104.0	-0.5
12	103.5	-0.5
13	102.9	-0.6
14	101.3	-1.5
15	100.7	-0.6
16	100.5	-0.2
17	100.0	-0.5
18	100.3	0.3
19	100.9	0.6

表2 平成19年の主な項目の変化率

項目	前年比 (%)
総合	0.6
生鮮食品を除く総合	0.3
持家の帰属家賃を除く総合	0.6
持家の帰属家賃及び生鮮食品を除く総合	0.4
食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	-0.1

註)前年比は各基準年の公表値による。(以下同じ)

図2 総合指数の月別の動き

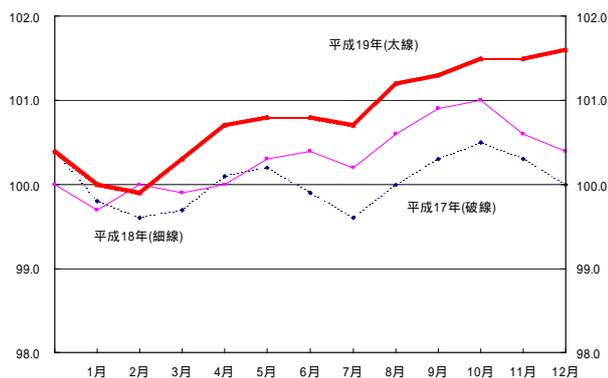


図3 生鮮食品を除く総合指数の月別の動き

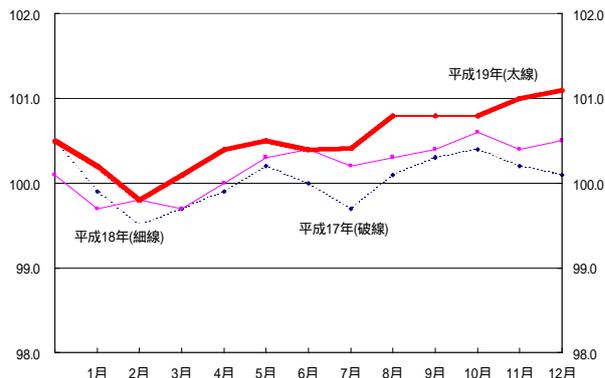
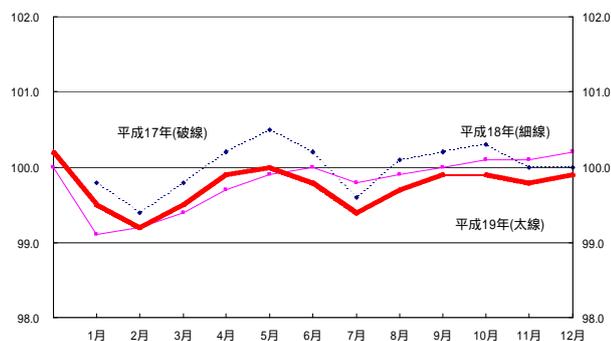


図4 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の月別の動き



1 - 2 10大費目指数の動き

平成19年の10大費目指数の動きを前年比で見ると、上昇したものが8費目、下落したものが2費目であった。

上昇幅がもっとも大きかったのは**食料**で、果物や魚介類などの値上がりにより1.7%上昇した。ついで**諸雑費**が1.2%、**教育**が0.7%、**光熱・水道及び被服及び履物**がそれぞれ0.5%、**交通・通信**が0.3%、**住居及び保健医療**が0.1%の上昇となった。

一方、下落した費目をみると、家庭用耐久財、家事雑貨などの値下がりにより**家具・家事用品**が1.8%下落、**教養娯楽用耐久財**などの値下がりにより**教養娯楽**が0.8%の下落となった。

なお、**教養娯楽用耐久財**は15年連続で、**家庭用耐久財**は10年連続で下落している。

10大費目の動きを平成19年総合指数の前年比に対する寄与度で見ると、**食料**が0.47で総合指数の上昇に最も大きく寄与しており、ついで**諸雑費**、**交通・通信**、**光熱・水道**の順となっている。

図5 10大費目の前年比

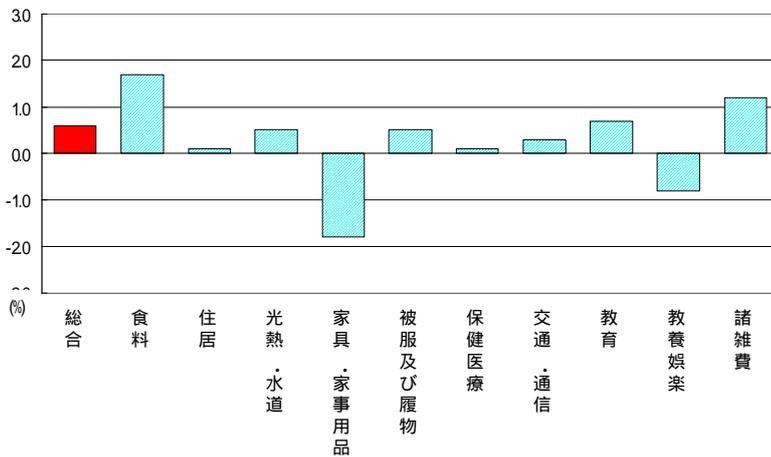


表3 10大費目の前年比及び寄与度

	前年比	寄与度
総合	0.6	0.60
食料	1.7	0.47
住居	0.1	0.02
光熱・水道	0.5	0.03
家具・家事用品	-1.8	-0.06
被服及び履物	0.5	0.02
保健医療	0.1	0.00
交通・通信	0.3	0.04
教育	0.7	0.02
教養娯楽	-0.8	-0.08
諸雑費	1.2	0.07

図6 10大費目の寄与度

